様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月　 ５ 日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３５２００６３

研究課題名（和文）「業と輪廻」理論成立史に関する原典研究

研究課題名（英文）Philological studies on the development of the Karman-Samsara Theory

研究代表者
後藤　敏文（GOTO, Toshifumi）

東北大学・文学研究科・名誉教授

研究者番号：４０２１５４９７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,500,000円、（間接経費）　1,050,000円

研究成果の概要（和文）：「業」と「輪廻」は仏教の基本概念に留まらず，インド思想史を貫く公理である。この一組の観念は突然に現れたものではなく，「ヴェーダ」文献における祭式理論の展開の必然的帰結である。このことが必ずしも正確に理解されていない現状に鑑み，リグヴェーダ，サンヒター文献，ブラーフマナ文献，ウパニシャッドに亘るヴェーダ文献から，初期仏典に至る重要箇所を選び，精密な翻訳，注解を作成し，その具体的展開を解明すべく努めた。本研究の結果を信頼できる資料として出版することを目指したが，インド・イラン共通時代の死後の観念に関する論究を加えて，近い将来達成できる見込みである。

研究成果の概要（英文）：The theory of karman and samsara (action and existence after death and rebirth) is not only a fundamental notion in Buddhism but also a sort of axiom throughout the Indian thought. This pair of concepts did not suddenly apear, but were founded on the development of Vedic ritualistic argumentation. Considering this fact is not yet understood correctly, the project aimed to collect decisive text places, to translate and annotate them precisely, and to elucidate the details of the development of the theory. A publication of reliable data is planned in the near future, which will include also an investigation about the notion after death in common Indo-Iranian period.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、印度哲学・仏教学

キーワード：業と輪廻　ヴェーダ　仏教　死後の観念　インド・イラン文献学　インド・ヨーロッパ語比較言語学　古代宗教　自己

１．研究開始当初の背景

ヴェーダ文献研究と仏教研究とは，Oldenberg, Windisch の時代から相携えて展開してきたといえる。その後，仏教研究は独自の領域を獲得し，仏教の経典と教理の展開に研究の中心を移してきた。ヴェーダ研究においては，インド・ヨーロッパ語比較研究の分野における成果が著しい。このような 20 世紀後半における研究の深化が，漸く結び合わされる段階に至っているように思われる。特に，その後のインド思想展開の解明に鍵となると言われて久しかった「ブラーフマナ」と呼ばれるテキスト群は，祭式文献という特殊性と言語の難解さとからインド学者の間にも近づきがたかったが，漸く研究が進み，若い研究者も成長してきた。

「業」karman は「行為」を意味する普通の語であるが，「輪廻」saṁsāra という語はヴェーダ文献には無く，術語として確立するのは仏典成立頃と推定される。「輪廻」は，本来，単なる生まれ変わりを謂うものではなく，古い時代にあった死後の観念を継承する概念である。応募者はヴェーダ散文文献研究に力を入れてきたが，「業」と「輪廻」の成立史を辿る文献箇所については，特に注意を払い資料を集めてきた。“ Yājñavalkya’s characterization of the ātman and the four kinds of suffering in early Buddhism ” (EVS 12-2, 2005, p.70－84 <http://www.ejvs.laurasianacademy.com/ejvs1202/ejvs1202article.pdf>),「Veda 祭式の brahmodya と Samyutta-Nikāya Ⅰ1,2,3」印度学仏教学研究 43-1 (1994) 486－481,「Yājñavalkya のアートマンの形容語と Buddha の四苦」同 44-2 (1996) 887－879 はこの主題に関わる。さらに，これまで得られた成果の概略を『印度哲学仏教学』24（2009 年 10 月）に発表し，重要箇所の一部を翻訳によって紹介したが，未解明の箇所や割愛した注解等が多い。原典の性格上，そもそも，読みの確定から解釈の吟味，根拠の提示に至るまで，詳細な検証が求められる。「業と輪廻」に結実する理論は，本人が地上でなす「祭式と布施の効力」が死後どのように働くかをめぐる神学的議論を軸に展開した。「祭式と布施の効力」の展開次第は，阪本［後藤］純子，今西教授記念論集『インド思想と仏教文化』1996, p.882－862; J. Sakamoto-Gotō, Indoarisch, Iranisch und die Indogermanistik, 2000, 475－490 によって解明された。「ブラーフマナ」と，それを引き継ぐ古ウパニシャッドの議論が軸になるが，既に『リグヴェーダ』に淵源が見られ，さらに，インド・イラン共通時代に遡る要素の存在が推定されるため，『アヴェスタ』に記述されるゾロアスター教の死後の道との照合も必要である。「祭式と布施の効力」に関する古い観念は，「業と輪廻」の理論と並んで仏典に余韻を留め，ヴェーダ文献には現れない往時の思想が記録されていることもある（天人五衰，人間五十年，入胎 avakrānti など)。議論の深化の背後には，部族社会における父系の継続より「個人の存在」が重要になった新思潮の関与が指摘される(西村直子，『論集』36，2009，69－93)。これらの資料を網羅的かつ精密に検証し，広くインド学，仏教研究，宗教学などで利用できる基本的資料として仕上げることを目指した。

２．研究の目的

「業」と「輪廻」は仏教の基本概念に留まらず，インド思想史を貫く公理となっている。この一組の観念は突然に現れたものではなく，ヴェーダ文献における祭式理論の展開がもたらした帰結である。そのことが未だよく理解されていない理由は，ヴェーダ文献研究の知見が広く共有されていない現状にある。文法研究と共に進展してきたヴェーダ研究の積み重ねは，漸くその展開の具体的様相を文献に跡づけられる段階に達している。本研究は，リグヴェーダ，サンヒター文献，ブラーフマナ文献，ウパニシャッドをはじめとする関連箇所，さらに仏典などの該当箇所を精査し，精密な翻訳，注解と共に提示することを目指した。そのような信頼できる資料の上に立って，業と輪廻を巡る観念の具体的展開を跡づけることを目的とした。

３．研究の方法

リグヴェーダから，順次，個々の文献箇所について，ローマ字テキストと異読・校訂上の注記，邦訳，文法・語彙・祭式・解釈に関する注解を作成する。それらの成果を考慮しつつ，古い観念の余韻を留める箇所を仏典，特にパーリ経典の求め，同様の作業を行う。さらに，医学書，古典期の文献,ジャイナ経典を取り上げる。それらを完成した後，文献から得られた知見を吟味して立体的に組み立て，「業」と「輪廻」の歴史的展開を跡づけ，相互の関連を検討，分析して記述する。それらの全てを，信頼できる資料集と分析，概観としてまとめる。最後に，出発点として，インド・イラン共通時代に遡る死後の観念を確認すべく，『アヴェスタ』の関連箇所と照合する。

４．研究成果

(1) リグヴェーダⅩ 14 以下「葬送讃歌(ヤマ・スークタ)」，Ⅹ 135「少年と戦車」（本年中に出版予定のガルシア・ラモン教授記念論集に発表予定)，Ⅰ 105「トリタの嘆き」について，精密な資料（原文，翻訳，注解）を作成した。

(2) 同様の作業をアタルヴァヴェーダ (Ⅱ 12，Ⅲ 29，Ⅵ 123，Ⅻ 5，ⅩⅧ 4 について行った。

(3) 同じく，ヤジュルヴェーダ・サンヒターのマントラ(タイッティリーヤ・サンヒターⅤ 7,7 とその並行句など)，同散文部分（マイトラーヤニー サンヒター Ⅰ 4,11，Ⅰ 8,6

とその並行部分，カタ・サンヒター V 6, XXXII 6，タイッティリーヤ・サンヒター III 3,8)を取り扱った。

(4) 同様の作業を，ブラーフマナについて: シャタパタ I 9,3;タイッティリーヤ III 7,5, III 10－11; ジャイミニーヤ I 17－18, 49－50, II 54; アイタレーヤ VII 24, VIII 15; カウシータキ VII 4, その他若干の関連箇所について行った。

(5) 同じく，古ウパニシャッド: ブリハッド・アーラニャカ IV 4; カウシータキ I; 五火二道説の諸ヴァージョン（ブリハッド・アーラニャカ VI 9，チャーンドーギャ V 10）; チャーンドーギャ IV－V，カタ・ウパニシャッド全体について作業を終えた。

(6) スートラ文献から，ヴァードゥーラ派のアヌアーキャーナ，カウシカスートラなどを中心に，上記(2)，(3)に関連する箇所を精査した。

(7) 仏典から，サムユッタニカーヤ (Sundarikabhāradvāja, Kasībhārdvāja)とこれに平行するスッタニパータの諸節; マッジマニカーヤ 38: I 256－271 (Mahātaṇhāsaṅkhayasutta，「サーティの邪見」); 93: II 147－157 (アッサラーヤナ・スッタ); ディーガニカーヤ II (沙門果経)，イティヴッタカ 76 (83 節: 天人五衰); ミリンダ王経 123ff.; クサ・ジャータカ (Jātaka 531 話); ディヴァーヴァダーナ冒頭部分; マハーヴァストゥの入胎に言及する箇所; さらに，「生苦」に関する言及箇所を中心に，ヴィナヤ I 10，ディーガニカーヤ II 30, II 305，アングッタラニカーヤ II 12; 15 とそれらの並行箇所; ガンダルヴァと中有に関するアビダルマコーシャ III 7; 「人間五十年」の基となった アビダルマコーシャ III 79 について，精密な翻訳，注解を作成した。

(8) その他: チャラカ・サンヒター IV 3（医学書の誕生理論）;『アヴェスタ』からハドークゥト・ナスク (Haδōxt Nask) II 8 を取り扱った。

(9) ジャイナ経典についてはもともと若干の言及に止める予定であるが，未だ作業を残している。

(10) 上記の成果を基に，近い将来に出版を目指したい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 11 件）

① 後藤 敏文, On Atharvaveda III 25, a spell “ to command a woman’s love ”, 査読無し，Proceedings of the 5th International Symposium. The Book. Romania. Europe, Mamaia (Romania) September 2012, Section III, 14pp.（掲載確定）

② Goto, Toshifumi, Morphology of Indic (Old Indo-Aryan), Handbuch für Sprach- und Kommunikationswissenschaft，査読無し，Band 46, Comparative Indo-European Linguisitics, Berlin/New York (Mouton-Gruyter), 30pp.（掲載確定）

③ Goto, Toshifumi, A survey of new evidence as to the formation of the Yajurveda and Brāhmaṇa texts -- With special reference to recent Vedic studies in Japan --, Proceedings of the Fifth International Vedic Workshop (Bucharest, 20－23 September 2011)，査読無し，Cambridge, Mass.,19pp.（掲載確定）

④ Goto, Toshifumi, Observations about Āryas’ migration into India, Beyond Collapse: Transformation of human-environmental relationships, past, present and future. Oct. 26 – 28, 2011 Kyoto, Japan, Organized by Research Institute for Humanity and Nature (RIHN)，査読無し，Kyoto (RIHN),11pp.（掲載確定）

⑤ Goto, Toshifumi, Yājñavalkya’s Characterization of the Ātman and the Four Kinds of Suffering in early Buddhism Festschrift Oguibenine，査読無し，Cambridge, Mass., 23pp.（掲載確定）

⑥ 後藤 敏文, prathamám「たった今」，奥田聖應先生頌寿記念インド学仏教学論集，査読無し，東京（佼正出版）2014 年，149-159

⑦ 後藤 敏文，インド・アーリヤ諸部族のインド侵出を基に人類史を考える，国際哲学研究（東洋大学国際哲学研究センター編），3 巻，査読無し，2014 年，43－57

⑧ Goto, Toshifumi, Hintergrund der indoarischen Einwanderung in Indien und die Menschengeschichte，国際哲学研究（東洋大学国際哲学研究センター編），3 巻，査読無し，2014 年， 231－248（⑦のドイツ語版）

⑨ 後藤 敏文，アーリヤ諸部族の侵入と南アジア基層世界，『インダス 南アジア基層世界を探る』，査読無し，京都（京都大学出版会），2013 年，295－316

⑩ 後藤 敏文，リグヴェーダを読む －ヴァスィシュタとヴァルゥナ－，京都光華女子大学『真宗文化』，査読無し，22 巻，2013 年，49－106

⑪ Goto, Toshifumi, Grammatical Irregularities in the Rigveda, Book IV, Indic across the Millennia: from the Rigveda to Modern Indo-Aryan. 14th World Sanskrit Conference, Kyoto, Japan, September 1st－5th, 2009. Proceedings of the Linguistic Section，査読無し，Bremen (Hempen Verlag), 2012 年，23-36

〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計 3 件）

① Goto, Toshifumi, Old Indo-Aryan morphology and its Indo-Iranian

background, Österreichische Akademie der Wissenschaften, Philosophisch-Historische Klasse, Sitzungsberichte, 849, Wien (オーストリア学士院紀要), 査読あり, 2013年, 222頁
② Michael Witzel, Toshifumi Gotō und Salvatore Scarlata, Rig-Veda. Das heilige Wissen. Dritter bis fünfter Liederkreis. Aus dem vedischen Sanskrit übersetzt und herausgegeben, 査読無し, Berlin (Verlag der Weltreligionen), 2013年,708頁（リグヴェーダ第四巻全体とGlossar, 文法事項解説, 発音解説ほかを担当）
③ 大島智靖, 西村直子, 後藤 敏文, GAV ―古インド・アーリヤ語文献における牛―, 総合地球環境学研究所 インダス・プロジェクト. 中洋・考古・民俗叢書3, 2012年, 167pp.（「古インドアーリヤ語文献における牛の概念」7－12,「語彙集」27－66の校閲・編集,「付論」中の77－80, 167を担当）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
gototoshifumi.jimdo

６．研究組織
(1)研究代表者
後藤　敏文（GOTO, TOSHIFUMI）
東北大学・大学院文学研究科・名誉教授
研究者番号：40215497

(2)研究分担者
(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者
(　　)

研究者番号：